



日本カトリック医師会 会報

2016 年号

JAPAN CATHOLIC MEDICAL ASSOCIATION 2016

この号の内容

1	巻頭言—慈しみの特別聖年—2016 年の会報発行に当たり	人見 滋樹	2
2	第 16 回アジアカトリック医師会総会の準備状況	石島 武一	3
3	第 16 回アジアカトリック医師会総会へのご寄付のお願い	石島 武一、他	3
4	こうのとりのゆりかご in 関西 1) 設立趣意書、2) どんないのちも輝いている、 3) カトリック新聞記事、4) 今後の目標	人見 滋樹	5
5	医療と祈り—いきいきと生きる	棚次 正和	9
6	リカ先生からの礼状とアルビル訪問報告	リカ・アルカザイル	10
7	シリアへの医療援助出張報告	リカ・アルカザイル	12
8	第 32 回カトリック医療関連学生セミナー 2016 in 札幌へ参加しましょう	石黒 昭彦	14
9	日本カトリック医師会移動理事会の御案内	安井 淳	15
10	平成 28 年度 日本カトリック医師会役員会・評議員会 議事次第		15
11	平成 27 年度事業報告		16
12	平成 27 年度決算報告		16
13	平成 28 年度事業計画		17
14	平成 28 年度予算		18
15	理事会・評議員会・議事録、支部報告	稲本 俊、禹 満、石島 武一、人見 滋樹	19
16	事務局から		22
17	支部と都道府県との関係地図		23
18	役員・評議員		24

【年会費納入と年会費口座振替手続きのお願い】

平成 26 年度より日本カトリック医師会年会費の納入方法として、「銀行口座等からの自動引き落とし」を採用させて戴いています。会費納入のお手間が大幅に省かれ、また、うっかり未納を防ぎ、会費の二重払いの防止にも繋がります。ぜひ、ご利用下さるようお願い申し上げます。

慈しみの特別聖年—2016 年会報発行に当たり

会長 人見 滋樹

日本カトリック医師会の皆様、今年も会報をお届けする時期となりました。

会報は4月に開催される理事会・評議員会・総会(隔年開催)の内容を会員の皆様にお伝えするのが第一の任務です。その他、会誌以降の動きや投稿等を掲載し、会員相互の切磋琢磨に役立てて戴くのが任務と存じます。

慈しみの特別聖年に私たちはアジアカトリック医師会第16回総会を主催いたします。その総会まで後残すこと半年となりました。特別講演にはiPS細胞を用いて網膜再生を行い、黄斑変性の失明患者の視力回復に世界で最初に成功された高橋政代先生をお招き致します。iPS細胞臨床応用の世界初の成功例です。その臨床的価値、倫理学的意義、ローマ法王に謁見され、ローマ法王庁科学アカデミー会員に任命された山中伸弥教授の業績の偉大さなどをお話し戴けます。

総会のテーマは、マテオ 25 章 40 節の「私たちのもっとも小さい兄弟に何をすべきか」です。それに即したシンポジウムや演題がアジア各国から多数寄せられています。

多くの会員がお誘い合わせてご参加くださることを期待いたしています。

熊本地震で災害を受けられた方々にお見舞いを申し上げます。「こうのとりのゆりかご」を实践されている蓮田太二先生の慈恵病院も被害に遭われていますが、病院の駐車場で子供や被災者の為の子供食堂を開催されていることを熊本日日新聞で知り、感激いたしました。

今年の会誌第54号で「こうのとりのゆりかご」の特集を組みました。その後、「こうのとりのゆりかご in 関西」を立ち上げる運動を日本カトリック医師会等の後援を得て企画しました。その経緯と今後の目標などを掲載しました。

総会で特別講演に棚次正和京都府立医科大学大学院教授(医学生命倫理学)に「医療と祈り」のテー

マでお話し戴きました。日々の生活の中での祈りの仕方までお話し下さり参考にするところが大きな講演でした。

イラクからの難民医師のリカ先生が私たち医師会の支援へのお礼状を下され、更に2016年2月に、イラク国内避難民支援プロジェクト実施のためシリアに派遣されました。その報告記事を掲載することが出来たことは、大きな喜びです。ご協力下さいました鎌田 實先生に御礼申し上げます。

今年の学生セミナーは、北海道支部の主催で、8月6日、7日に札幌で開催されます。テーマは「ともに成長する親と子」です。皆様のご参加をお願いいたします。

移動理事会は大分支部のお世話で、9月に大分市で行われます。

新入会員は9名でそのうちの5名はホームページを通しての入会です。若い方が多く頼もしく存じます。

HPは岡野篤夫担当理事のご指導の下に事務局の力でスムーズに運営され、充実してきています。HPへの新着ニュースの投稿をお待ちしています。

医師会の活動の一つにメーリング・リストによる意見交換、情報提供があります。後藤正道担当理事のお力でスムーズに有効に活用されています。

尚、第16回アジアカトリック医師会総会の最終日に、慈しみの特別聖年の締めくくりの司教ミサが各司教区で行われます。慈しみの聖年の実りが多いこと、アジア総会が成功裏に終わることをお祈りしつつ。

第16回 アジアカトリック医師会総会の準備状況

組織委員長 石島 武一

第16回アジアカトリック医師会総会まであと数カ月に迫りました。準備状況をご報告申し上げます。

1. 会期と会場

会期は2016年11月10日（木）から13日（日）の4日間、会場は京都大学医学部構内で、医学部同窓会館の芝蘭会館です。

2. 総会のテーマとサブテーマ

テーマは、「われわれ兄弟の中のもっとも小さな人に何をすべきか」という、マタイ25章、40節からとりました。サブテーマとしては、①高齢聖職者の健康管理、②エイズ：その現状と対策、③高齢者の終末期ケア、④子供の人権擁護―誘拐と虐待、⑤学生の集い、⑥自由演題、⑦ポスター、の7分門を設定しました。

3. 特別講演

初めはiPS細胞の創始者、山中伸弥 京大教授にお願いしようと思いましたが、教授の日程とどうしても調整がつかず、代わりにiPS細胞を使った初の網膜治療に成功した高橋政代先生にお願いすることになりました。

4. 演題の応募状況

現在、43演題が確定し、さらに数演題が加わる見込みです。初めの予想を大幅に越え、時間の配分をどうしようかと、嬉しい悲鳴を上げています。この中にはアメリカ、フランス、オーストラリアからの応募もあります。現在、プログラムを作成中です。

5. 参加登録者

5月24日現在の参加登録者総数は111名で、国別では、日本50、台湾24、マレーシア13、インドネシア10、フィリピン8、オーストラリア2、アメリカ2、韓国1、フランス1です。ただし、これ以外に参加費を払い込みながら登録の手続きをしていない人が12人いますので、実際は123名の方が参加の意思を表明されています。しかし、まだ当方の期待数の1/3程度です。出来るだけ多くの方々のご参加をお待ちしております。参加申し込み方法は、

1) インターネットをご利用の場合：

日本カトリック医師会のホームページの第16回アジアカトリック医師会総会第1報（改定版）参照。

2) 総会担当業者のプライムインターナショナル株式会社に連絡：電話、あるいはFAX、手紙などで申込方法を聞いて下さい。

連絡先は；〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-13-10 恵比寿壺番館601

電話：03-6277-0117 FAX：03-6277-0118 です。

6月30日までは早期割引期間（Early Bird Period）ですので、お早目にお申し込み下さい。

6. 財政状況

当初の予算を2千万円としてスタートしました。参加費だけでは到底足りないの、皆様方のご厚意におすがりして、何とか目標を達成すべく努力して参りました。百数十人の会員の皆様、ならびに十数ヶ所のカトリック医療施設協会の病院から多大なご厚志を賜りました。

5月27日現在、15,805,712円の浄財が集まりました（ただし、これには総会参加費の入金も含まれます）。しかし、まだ目標の2千万円には達しません。

まことに申しあげにくいことではございますが、なお一層のご支援を戴ければと存じます。

ご寄付を賜わる場合、「アジアカトリック医師会」銀行口座にお振り込みいただくと、参加費との区別がつきにくく、混乱を招くので、下記のゆうちょ銀行口座にお振込み下さい。その時は

「アジアカトリック医師会総会への寄付金」と明記して下さいようお願いいたします。

【ゆうちょ銀行払込取扱票ご利用の場合】

口座記号：00150-7 口座番号：96285（右詰め）

加入者名：日本カトリック医師会

【インターネットバンキング及び各銀行窓口ご利用の場合】

銀行名：ゆうちょ銀行 金融コード：9900
店番：019 店名（カナ）：〇一九（ゼロイチキユウ店）
預金種目：当座 口座番号：0096285
カナ氏名：ニホンカトリックイシカイ

（カナは全て大文字です。下線の文字にご注意ください）

以上です。24年ぶりに日本で開催されるアジアカトリック医師会総会を実りあるものにするため、皆様方の絶大なご支援をお待ちしております。

第16回 アジアカトリック医師会総会へのご寄付のお願い

ご案内の通り、日本カトリック医師会は2016年11月10日（木）～13日（日）の4日間、京都で第16回アジアカトリック医師会総会を主催いたします。アジアカトリック医師会は1960年にマニラで第1回総会を開き、その後ほぼ4年毎に各国持ち回りで総会を開いています。日本が主催するのは今回が3回目です。第1回は1968年に第4回アジア総会を東京で、1988年に第9回アジア総会を長崎で主催しました。来年の第3回目は京都で第16回アジア総会主催となります。総会を3回主催するのは日本が最初です。

総会のテーマは、「私たちのもっとも小さい兄弟に何をすべきか」というマタイ福音書25章40節からとりました。プログラム等の詳細は日本カトリック医師会のホームページに掲載されておりますのでご覧下さい。最近活力を増してきたアジアのカトリックの中で、日本の存在感を示すよい機会と考えます。日本をアジア各国の方々に知って戴くことは、戦争を無くし世界の平和に貢献する最高の道だと思います。

総会の運営には約2千万円の費用が見込まれております。参加者からの登録費だけではとても賄えません。そこで会員の皆様からのご寄付に頼らざるを得ないのが実情です。組織委員会としては、会員の総会登録費は3万円です。一人でも多くのご登録をお願いいたします。

それに加えて、会員の皆様が昨年と本年に各1万円、計2万円を最低額としてご寄附下されば約880万円となり、何とか運営できると考えております。もちろん、それより高額のご寄付は大歓迎です。

実は、このお願いは一昨年からしてありまして、すでに何人かの会員の方からご拠金を頂いております。しかし、拠出下さった方はまだ82人のみで、金額も250万円弱というのが現状です。会員の皆様には現状をご賢察の上、募金にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、今まではカトリック医師会の郵便貯金口座に振り込んでいただいておりますが、このたびアジアカトリック医師会専用の銀行口座を作りましたので、下記の口座にお振り込み下さいますようお願い致します。

三井住友銀行目白支店（店番号677）、普通預金 口座番号：6908992

口座名：アジア・カトリック医師会 代表 石島武一

（アジア・カトリックイシカイ ダイヒョウ イシジマブイチ）

以上 日本カトリック医師会会長：人見 滋樹
同 事務局長：禹 満
第16回総会組織委員長：石島 武一

「こうのとりのゆりかご IN 関西」 設立趣意書

私どもは、「お腹の赤ちゃんも大切な社会の一員」との思いで妊婦さんをサポートする活動を続けて参りました。活動の一つである、経済的に困窮する妊婦さんの支援のための、一口一円の円ブリオ基金では、全国で505人、近畿では47人の赤ちゃんの誕生を支援致しました。

平成25年、大阪府の未受診、飛び込み出産は全国的にもワーストな285件、そのうち未成年は50件にも上ります。未受診の主な理由は経済的な理由ですが、未成年の場合は「家族にも言えず、どうしていいかわからなかった」が一番多い理由です。

また、社会保障審議会の児童虐待検証委員会は、平成25年度に把握した心中以外の虐待死事例で、「0歳」が44.4%で最も多く、その調査結果から、未受診や望まない妊娠など、妊娠期・周産期の問題が乳児虐待につながることを指摘しています。

大阪府では対策に乗り出し、飛び込み出産の実態調査と、都道府県で初めて行政での妊娠SOSを起ち上げました。

家族力の低下により、若年層は社会からの孤立を深め、未成年の妊娠など、悩める妊婦さんの声は、届きにくくなっています。誰にも相談できず、遺棄され亡くなっていく赤ちゃんを救うため私どもは、「こうのとりのゆりかご IN 関西」設置を目指しています。

話題になったテレビドラマ「コウノドリ」では、医療関係者が小さな命を救うために懸命に努力する姿が視聴者に感動を与えました。

私どもは、まず社会の空気が「どんな事情で生れてきても、どんな命も命そのものが大切なんだよ」と、新しい命の誕生を後押しし、お腹の赤ちゃんを温かく迎える社会へと変えていくことが大事だと考えます。

我が国唯一の「こうのとりのゆりかご」の熊本の慈恵病院には妊娠SOS電話が、年間に5千数百件もあり、その内の2千件は関西からです。ゆりかごに匿名で預けられた112人の赤ちゃんの内の10人が関西からです。妊娠を控えた妊婦が関西から熊本まで行く際の不安は計り知れないものがあります。SOSに応える施設は、全国にあることが望まれます。

設立の趣旨をご理解いただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表 人見 滋樹



どんないのちも輝いている

こうのとりのゆりかご in 関西 代表 人見 滋樹

ノーベル文学賞を受賞した大江健三郎さんは、『個人的な体験』という本を書かれました。『長男の光さんの出産時に、手術をしたら命は助かる可能性はあるが重い脳神経障がいが残る、手術をしなければ死ぬであろう、と医師から言われた。手術を受けるか否か悩んだ末に手術を受けた。手術後、毎日病院に通院しながら、本当に悩み、苦しい思いをした。まずショックを受け、ものすごく苦しむ、その苦しむ時期を経ないと、確実な受容期は来ない。悩むのが人間であり、人間とはそういうものだ。そして、光さんは個性溢れる、ユーモラスな子どもに育っており、幸せである。最初の混乱期は怒りや憂鬱があったが、そこから脱却し、価値観の転換が起こって障がいと共に生きる覚悟をする。苦しんだからこそ完璧な受け入れが出来たのだ。さらに、この子と一緒に社会に出て、社会のために仕事をしよう、と決心した』という体験が書かれています。

神戸の盲学校で、眼が見えない子ども達に粘土細工を教えられた福来四郎先生という方がおられます。「眼が欲しい」というタイトルの粘土像を作った子は「医師に見えるようにはならないと告げられた時、僕は心の中で泣いた。声を出して泣いたらお父さんが悲しむから」と。お母さんに抱かれている像には、「お母さんがいつもがんばってやーと言ってくれる」というコメントがついていました。無眼球児で眼窩が凹んでいる小学5年の子の「祈る」という像には、「神様、私に眼を下さい。ダメなら、私の心の眼を開いて」とあります。5年生の児童がこれほど深い哲学的、宗教的言葉を言えるのは、それだけ深い悩みを乗り越えたからでしょう。福来先生は、子ども達の粘土細工の写真集を作られ、世界192ヵ国に寄贈されています。

産みの親より育ての親

私は、ホスピスで回診をする時、ベッドサイドに座って時間を掛けてお話をします。そんな時、「私もう

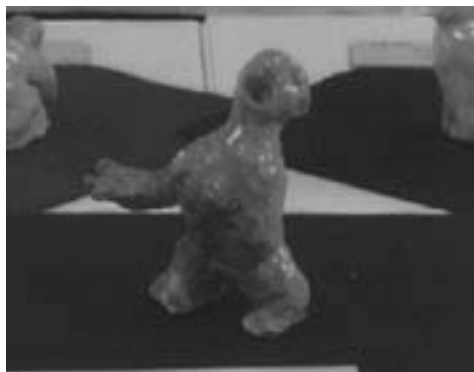
死ぬの？」と聞かれるとドキッとしますが、たじろいではいけません。話をしてその人の歴史を知ると、尊敬の念が出てきます。その人の人生を振り返り、一緒にその人の人生を肯定するのです。これをライフ・レビュー・セラピーと云います。話をする時は、患者さんの感情に焦点を当てて話します。そうすると「この人は私の気持ちを分かってくれる」と話が弾みます。人間対人間のお話なので、こちらの人間性を日々高めていかないとはいけません。

86歳のおばあちゃんのベッドサイドにはカトリックの数珠が置いてありました。お話を聞くと、おばあちゃんは熊本で生まれ、4歳の時に両親が離婚し、天使園というカトリックの乳児院に預けられ、20歳から独立し、女中として働かれた。見合い結婚をして大阪で生活し、子ども・孫・ひ孫もいるとわかりました。「天使園が懐かしい」と言われたので、代わりに私が天使園に行き、園長先生に過去の資料を調べてもらおうと、昭和17年の洗濯場の写真と集合写真が見つかり、接写して持って帰りました。すると、おばあちゃんは「ここで洗濯をしました。この写真の中に私がいる」と懐かしがり、幸せそうに毎日その写真を抱いて寝ておられ、1ヶ月後に家族に囲まれて、穏やかに亡くなりました。

小さな命を皆で支えよう

私は京都市出身で、現在、新幹線が通っている辺りは本当の貧民街でした。そこに神父さんが小屋を借りて、私達学生が子ども達と遊んだり、勉強を教えたりしていました。その時、1人の女の子が妊娠してしまいました。相談されても、何も出来ません。その地域のリーダーに優れた男性がいて、その方がお世話をして下さいました。その方もバタ屋という屑物集めで生計を立てている方でした。その方のご尽力で、京都市と交渉し、貧民街の人達は数年で別の市民住宅に移ることが出来ました。

今、養子縁組を望む方が大勢おられます。中には



「眼が欲しい」 中学3年 溝畑 清
「見えるようにはならないと医師に告げられた時、僕は心の中で泣いた。声を出して泣いたらお父さんが悲しむから。僕は眼が欲しい。」
(神戸親和女子大学所蔵)



「祈る」
小学5年 飯田博由
「神さま、私に眼をください。それがだめなら、私の心の眼を開いてちょうだい。」
(神戸親和女子大学所蔵)

「こうのとりのゆりかご IN 関西」の 直近の目標

- ①妊娠SOS相談事業の充実（電話・メール・面談）
阪神大震災の経験を活かす。小林 和医師（精神科）の指導を受ける。
「妊娠SOSホットライン」全国一斉相談に7月1週間参加、事務所はガラシア会、電話代の問題解決に円ブリオ基金の強化
相談ボランティアの養成、講習会、日本財団の妊娠相談対応ガイドブック参考
- ②「こうのとりのゆりかご」設置病院の支援（匿名出産も引き受ける）
大阪府の行政の支援（吉田利幸府会議員の協力）
- ③「こうのとりのゆりかご」連携（協力）病院の支援
- ④養子縁組の促進
特別養子縁組の研究者：瀧本茂（奈良学園大）、川村隆子（名古屋学園大）の指導を受ける、養子縁組を希望している6000組の夫婦に応える
- ⑤講演会・セミナー
水谷もりひと（宮崎中央新聞編集長、2016年9月24日、大阪市）
- ⑥青少年の教育の充実（家庭、学校、社会で）



医療と祈り—いきいきと生きる

棚次 正和 (京都府立医科大学名誉教授)

日本語の「いのり」は、本来「い(生命力) + 宣(宣言)」ということで、生命の根源のひびきに言葉を乗せて高らかに宣(の)り出すことでした。いのりは、神仏へのお願いや願望でも、想念の力を用いた念力や呪いでもなく、また世界に影響を与えない内心の出来事でもありません。鳥が大空を舞い、魚が水中を泳ぐのが彼らの自然本性によるように、人間は自然本性に由来する行為として祈る、つまり「いきいきと生きること」を目指すのです。弱いから祈るのではなく、人間であれば誰でも、息をするように祈るのです。

祈りの現実的な効力や治癒効果については、欧米では科学的研究が蓄積されてきました。ランドルフ・バード医師による心臓病患者への祈りの治癒効果の実験(1988年)は、その見事な一例です。日本では、村上和雄先生(国際科学振興財団バイオ研究所長・筑波大学名誉教授)主宰の「心と遺伝子研究会」と

高野山大学密教文化研究所が連携して、「いのちと遺伝子」共同研究が、2013年12月より横浜・弘明寺の協力で始まりました。この実験では、僧侶型遺伝子、護摩行遺伝子、護摩行の場に関する遺伝子と呼べるものが、それぞれ数十個、発見されています。おそらく、他宗教の祈りや宗教と無関係の祈りの効果についても、同様の結果が予想されます。科学と宗教(霊性)が再会する日は、刻々と近づいています。

医療現場で祈りを活用するには、どのような方法があるのでしょうか。祈りを補完・代替療法の一つとして活用する以外にも、日々の生活の中で呼吸を自覚的に深める習慣を身につけながら、定型の短い祈り—たとえば、生きとし生けるもの全てが幸せでありますように—を医療の場面・場面で瞬間的に差し挟んでゆくというやり方があるように思います。祈り方とは、息の仕方、要するに私たちの「生き方」に他ならないのではないのでしょうか。



【プロフィール】

棚次正和 (たなつぐ まさかず)

1949年香川県生まれ。京都大学大学院文学研究科(宗教学専攻)博士課程修了。筑波大学助教授・教授(哲学・思想学系)を経て、2003年京都府立医科大学大学院教授(医学生命倫理学)、2015年定年退職。

近著に『祈りの人間学』(世界思想社)、『医療と霊性』(医学と看護社)、『超越する実存』(春風社)、『新人間論の冒険』(昭和堂、人体科学会「湯浅泰雄賞」受賞)などがある。研究テーマは、人体論(人間の存在構造論)、医学哲学、霊性と科学の統合など。

アルビル訪問報告

リカ・アルカザイル（JCF スタッフ医師）

日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）のニューズレター「グランドゼロ 107 号」から転載

2016 年 2 月 24 日から 3 月 2 日にかけて、イラク国内避難民支援プロジェクト実施のための訪問団が派遣されました。日本からは鎌田理事長と私が派遣され、そして現地駐在員である加藤が同行しました。

マルチシムーニ教会クリニック支援

私たちはマルチシムーニ教会クリニックを訪れ、ベフナム神父、ウィサーム医師、薬剤師のアルハーンやクリニックの責任者たちから、最近正式に NGO として認可されたマルチシムーニ教会クリニックの現状について聞き取りを行いました。

また、滞在中には同クリニックで働くスタッフの功労式典をアルビルのノーブルホテルにて催しました。

そこでは、私たちが支援しているクリニックのブランチ、カスナザーン地区、ニジュティマーン地区を含め、6 カ月以上勤務してくれた、総勢 80 名（パーティの出席者は 64 名）のこれまでの貢献を称え、感謝しました。式典の中で、私たちは日本カトリック医師会（JCMA）から頂いた寄付金を贈呈するとともに、JCF からは感謝状をそれぞれのスタッフに贈呈しました。

感謝状には鎌田理事長による一筆も添えられました。スタッフたちは鎌田理事長が書いてくれた漢字「夢」「平和」「絆」などに興味津々でした。そしてスタッフ全員が JCF や JCMA を始めとする、避難民に対する関心を持ち続けてくれている日本の人々



マルチシムーニ教会クリニックスタッフ功労式典

に対する深い感謝の念を示してくれました。あるスタッフは「アルビルに避難してきて以来、この式典が最も喜ばしい出来事だった」と感想を述べたほどでした。

イラク保健行政の停滞

滞在期間中鎌田理事長と私は、ナナカリ病院（アルビルにあるガン血液疾患専門病院）を訪問し、小児がん治療の責任者であるペイマーン医師の案内で患者さんの様子を視察しました。

現在のイラクは深刻な経済危機にあり、薬品の供給が大きな懸念事項です。そのため鎌田理事長は薬品供給の状況やサポーター・ケアなどについて質問されましたが、保健行政は停滞していく一方ですので、確固たる見通しが立たないとの返答でした。

それどころか、これまでイラクになかった診療報酬制度も初めて導入されようとしています。これは検査や、外科手術、レントゲン撮影、入院など、すべての医療行為に対して課せられるものであり、患者さんにとって大きな負担を強いるものです。ましてさらに厳しい経済状況に置かれている避難民にとっては、非常に深刻な問題となり得るものです。

N連事業の実施

また、鎌田理事長は今回の滞在期間中にマルチシムーニ教会で約 150 人の国内避難民を前に予防医療に関する講演会を行いました。

そこでは現在のイラクの避難民のように困難な状況下でどのように健康増進を行えるかというのが演題でしたが、先生は 5 つのポイントを強調されました。①減塩 ②野菜を多く摂取すること ③運動、1 日に 15 分のウォーキング、もし無理ならば週 2 回でも良い ④生きがい（明るい心持でいよう）⑤絆、人と人のつながりが慢性疾患の予防につながる（ロゼット伝説を例に）。

またマルチシムーニ以外にも避難民が住むキャン

ブにて同様の講演会を行い、ここではヤズィード教徒の人たちが熱心に講演会に耳を傾けてくれました。講演会終了後も自身の抱える健康問題について鎌田先生に質問する患者さんが後を絶ちませんでした。

現地イラクにおける JCF の注目

イシュタル TV が私にインタビュー番組への出演を要請し、それが滞在中に実現しました。インタビューの内容は JCF の活動、特にマルチシムニ教会クリニックでの支援や、同様に JCF の支援によって開設される新しい国内避難民用の「PHC（一次医療施設）」に関する質問が多くなされました。また、それらのプロジェクトの進捗状況や、どのくらい継続されるのか、日本からイラクの国内避難民への支援をより充実させるために必要なことは何なのか、など、たくさんの質問を受けました。



ファラフ・アル＝アターウのメンバー（左端）に支援品とグランドゼロを渡す

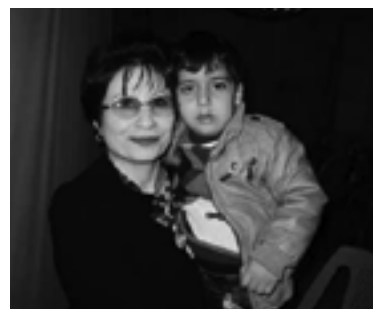
現地 NGO との協力

また現地 NGO の「ファラフ・アル＝アターウ（与える喜び）」のイーマーンさんともお会いし、私の母が作った鞆などの手工芸品を JCF からの寄付として手渡

しました。こうした形で活動に参加することで、彼らがより有益な活動を行うことができればと考えています。彼女はすごく喜んでくれました。彼女たちの活動が記載されたグランドゼロ（106号）もプレゼントしました。またファラフ・アル＝アターウには、鎌田理事長を介して一澤帆布さんの鞆も大きな段ボール2箱分寄付されています。

患者さんとの再会

滞在期間中の午後は、私が滞在するホテルに、以前私が主治医だった患者さんが毎日のように会いに来てくれました。



そのうちの2人 現地の患者さんと再会した
リカ医師
の患者さんは慢性

骨髄性白血病に罹っており、タシグナという非常に高価な薬を必要としています。これまで JCF もその薬品の一部をサポートしてきましたが、1カプセルが50ドル（日本円で約6千円）、一日当たり4カプセルを服用せねばならず、最低200ドル必要になります。そしてこれをほぼ毎日継続しなければなりません。現在もイラク中央政府がこうした薬品を供給することは難しいため、JCF の他にも松本カトリック教会が支援しています。しかし継続的な薬品の服用が必要なため今後もこうした支援を募り続ける必要があります。

新しいプロジェクト

国内避難民のための一次医療施設の設置

今回は訪問全体を通して実りの多いものでしたが、その中でも最も大きな功績は、アンバール県やサラフディーン県などからの国内避難民が多く居住する地域に PHC の開設が決まったことです。日本への帰国日当日、私たちはこの PHC を訪れ進捗状況を視察しました。建物はアルビル県保健局（クルド自治政府）が、スタッフはモスル（ニーナワー県保健局）が、そして医療機材は JCF が供与することで、3者の合同プロジェクトとなりました。JCF

Dear Prof. 人見先生
イラクのお医者さん達が日本カトリック医師会からのご支援を大変に感謝していました。
今後の医療活動にもとても有り難い応援になりました。
ありがとうございました。

Sincerely,
Lika'a Fasih Yaqoub Al-Kzayer
Consultant Pediatric Oncologist, MD, PhD
Researcher in Shinshu University,
School of Medicine,
Matsumoto, Nagano, Japan
Mobile in Japan: 0081- (0) -8069969574

リカ先生からの礼状

は機材供与を行うことで、初めて現場レベルにおけるクルド（アルビル県保健局）とアラブ（ニーナワー保健局）が協力事業を行うその架け橋としての役割を果たしました。この PHC 視察の前日にはニーナワー県副保健局長ライス・ハッバーバ医師を始めとした、アルビル県保健局の責任者たちと会合を開きましたが、この会合は非常に有意義なものとなり、モスル、アルビルの双方に国内避難民への医療サー

ビスを拡大する上で良い影響を与えることができたように思いました。

最後に、伊那北高校から寄付された子供の絵本をアルビルの幼稚園に届けたこともご報告します。避難民の子供たちはとても喜んでいましたし、伊那北高校の生徒さんにとっても感謝していました。伊那北高校の皆さま、どうもありがとうございました。

本 PHC がカバーする地域の国内避難民家族分布

	地域	避難民家族数
1	ハルシヤム 2	550
2	ハルシヤム 3	600
3	ゴーラーン	660
4	カンジヤーン	480
6	新バハルカ	240
7	クルド・ジュティヤール	1120
8	シヤイフ・シヤール	510
合計		6660



伊那北高校からのプレゼント絵本（リカ医師がアラビア語翻訳添付）に見入る子どもたち

シリアへの医療援助出張報告

リカ・アルカザイル（JCF スタッフ医師）

日本チェルノブイリ連帯基金（JCF）のニューズレター「グラウンドゼロ 107 号」から転載

2016 年 2 月 26 日、27 日の 2 日間に渡り、イラク、アルビル市内のノーブルホテルで JIM — NET 会議が開催されました。

これまでの 12 年間に渡り、会議の司会は血液専門医である井下俊医師が務めてこられたのですが、今回は井下医師の都合が付かなかったため、佐藤真紀 JIM — NET 事務局長からの依頼で、私が代行することになりました。

会議の準備として私はイラク各地の医師たちから治療データを収集するところから始めました。データを収集している間も私は頻繁に井下医師と連絡を取り合いながらこの作業を進めました。井下医師はイラクの各病院のデータを整理する上でたくさんの助言を与えてくれました。

また、この作業と並行して会議のパンフレット作成にも取り掛かりました。連絡可能なイラクの 4 病

院の医師たちから治療データの概要を集め、パンフレットを作成しました。そして、これを分析し、結論をまとめていきました。

私自身も会議の中で 3 つの発表を行いました。1 つ目の発表は間もなく正式に発表される私の最新論文である『イラク人カボジ腫瘍の症例』について、2 つ目は著名な医学研究者らによって英国の医学誌に掲載された『過去 30 年における小児がん治療成績』について、そして 3 番目は『日本における急性リンパ性白血病の治療成績』についてです。

また、これらの発表に加え、『白血病治療における Car-T 細胞療法の試験的利用』についてのレクチャーを行いました。これはアメリカを始めとして、日本では信州大学や名古屋大学で研究されている急性リンパ性白血病の最先端治療法です。

治療成績

イラクの4病院の治療成績

CWTH

小児福祉教育病院／バグダード

CCTH

中央小児教育病院／バグダード

BCSH

バスラ小児専門病院／バスラ

NKH

ナナカリ病院／アルビル

*CR1（第一完全寛解）：化学療法による寛解導入開始から28日以内に骨髄におけるガン細胞率が5%未満となった状態。

*CCR1（継続的寛解状態）：通常男児の場合は3年、女児の場合は2・5年の期間寛解状態が継続すること。（上記の表では期間途中の集計）

新規患者数について

2014年～2015年のALL（急性リンパ性白血病）の新規患者については他の病院と比較してバグダード小児福祉教育病院が最多数となりました。新規患者数の全体的傾向は全病院で減少しましたが、これはイスラム国（IS）の台頭により、モスル、アンバール県、サラーフディン県などにおいて治安状況が悪化し、地方の病院で診断を下されたものの都市部の専門病院にたどり着くことができなかったため、もしくは診断が下される前に亡くなってしまったケースが多いからだと考えられます。残念なことに、治療よりも避難の方が優先されるような状況の結果だと言えるでしょう。

第一完全寛解率の成績

2013年～2015年にかけて、バグダードの治安悪化にも関わらず、CWTHは努力の末に何とか最低目標ラインである第一完全寛解率92%を達成することができました。これはイラク国内の病院の中でも最高の治療成績となっています。

バグダードのもう一つのセンターのCCTHが85%にまで低下しており、大きな開きを生んでいます。しかし、この92%という数値を達成するのも非常に困難でした。なぜならば政府からの抗癌剤供給が停

滞し、そのため医師たちは薬品の供給源を他から探さざるを得なくなったからです。

また、イラク全体の経済状況も厳しくなり、患者さん家族による子供に対するケアの質、つまり食事や栄養管理、または感染症対策の質にもこうした経済状況の悪影響が見られたからです。この数字はこのような状況にも関わらず達成された偉業と言えるものです。

予後

第一完全寛解に至った患者の予後についても2014年度にCWTHが達成した92%という数値が最も良いものでした（2015年度の成績については、もう少しばらばら観察期間を要します）。また死亡率、再発率、治療の中断の率なども他病院と比較しても優秀な結果が見られます。したがって、治療成績や目標値を達成したことから見ても、CWTHがイラクで最良の小児腫瘍の病院と言えると思います。

この理由を考えてみると、同病院において専門医の数が多く、学術的なレベルが高いこと（イラクの最高学府であるバグダード大学医学部付属のセンターであり、また最も多くの患者さんが紹介されてくるセンターである）などが考えられます。

また医師たちがとても献身的であり、また彼らが良いチームワークを保っていること、そして海外の先端医療施設と連携し、患者さんのためならば躊躇することなく海外に症例の相談を行うところなども理由として挙げられます。

そのため、ここのスタッフは患者さんや、患者さん家族からも尊敬されており、患者さんの親族がボランティアで資金集めや薬品調達に協力してくれるようになりました。

イラクでは政治腐敗などの問題がありますが、助けを求める人々の訴えに耳を傾けて一生懸命働く人もこのように存在するのです。

Teaching Hospital in Baghdad, a major referral center for childhood cancers in the country.

*CCTH: Central Children Teaching Hospital in Baghdad. *BCSH: Basra Children's Specialty Hospital in Basra.

*NKH: Nana-Kali Hospital for Hemato-Oncology (NKH) in Erbil.

第32回 カトリック医療関連学生セミナー 2016

日本カトリック医師会

8月6日、7日（土、日）札幌 天使大学での開催に向け、カトリック看護協会、天使大学学生の皆様とともに現在準備を進めております。

天使大学は、札幌駅の北東約1kmにあり、地下鉄で1駅、地下鉄駅から徒歩2分とアクセス良好です。

メインテーマは「ともに成長する親と子」といたしました。これまでのセミナーと同じように、講演とグループワークを中心に進めてゆきます。講演演題に関しましては、ポスター等をご覧ください。

学生の皆様の宿泊に関しては、天使大学から徒歩圏内にある「北11条教会」に25名程度の宿泊が可能であり、女子修道院にも4名程度。足りなければ、ケン神父様の円山教会（やや遠いですが）にも宿泊可能とのことです。遠藤先生の宿泊あっせん情報もご参考に、多くの方々のご参加をお待ちしております。





第32回 カトリック医療関連学生セミナー 2016 in 札幌

関心のある方はどなたでも参加可能です

日時 2016年8月6日（土）受付9:00～7日（日）13:00終了予定
会場 札幌市東区北13条東3丁目 天使大学

テーマ 「ともに成長する 親と子」

- ・「児童養護施設で暮らす子どもたち～さまざまな親と子の形～」
児童養護施設 天使の園 児童指導員 堀久千 先生
- ・「子どもの笑顔を守るために～子ども虐待の防止にむけて～」
慶女子大学 人間生活学部 保育学科教授 小川恭子 先生
- ・「親と子どものための性教育」
元小児保健所長 秋野恵美子 先生
- ・「いのちの始めと母と子のきずな（仮）」
天使大学大学院助産研究科 特任教授 近藤潤子 先生

参加費 学生3,000円 / 一般 10,000円

主催：日本カトリック医師会（企画 北海道支部）
後援：日本カトリック医療施設協会
日本カトリック看護協会

※一般の方は、宿泊費の手配を各自で行ってください

事務局 数寄江内科クリニック 院長 佐藤和太郎
E-mail catholicseminar32@yahoo.co.jp
TEL 011-764-1512



↑ (FAX) 011-764-1512

第32回 カトリック医療関連学生セミナー 2016 in 札幌 申し込み書

(ふりがな)	氏名	男・女
住所 (郵便物送付先)		
電話番号		
Eメールアドレス		
職種 / 職種 (学生は学年も・学部・学年を、一般の方は医療機関名、職種を記入して下さい)	学生・一般 (○で囲んでください)	
懇親会 6日午後6時から サッポロビール園	参加・不参加 (参加費：学生無料、一般2,000円) 学生は原則全員参加してください	
お弁当	要・不要 (6日の昼食です。1つ800円)	
学生の場合のみ 宿泊施設料金の必要	要・不要 (要の場合、後日連絡します)	
遠方から参加の学生のみ往復交通費を補助します。札幌まで最安値の交通機関を利用してください。(上限2万円)	交通費 要・不要 利用交通機関() 区間() 値段()円	()円

(参加費は学生3,000円、一般10,000円です)

参加費()円 + お弁当代()円 + 懇親会費()円
= 合計()円

を下記の口座に振り込みます。

口座 ゆうちょ銀行 記号 19020 番号 8122161 普通預金
口座名 日本カトリック医師会北海道支部
他の金融機関から 店名 九〇八(きゅうやうはち) 店番 908 普通預金
口座番号 0812216
口座名 日本カトリック医師会北海道支部

メールでのお申し込みもできます。上記必要事項をご記入下さい。
catholicseminar32@yahoo.co.jp

日本カトリック医師会移動理事会のご案内

大分支部長 安井 淳

日時：平成 28 年 9 月 17 日（土）13 時 30 分～
場所：ホルトホール大分（JR 大分駅 南口 徒歩 2 分）
理事会：13 時 30 分～ 16 時（4 階 404 号室）
特別講演：16 時～ 17 時（4 階 404 号室）
演者：中井 俊巳氏（長崎大学教育学部卒、中・小学校に 23 年勤務、55 歳から作家活動、大学在学中に、

ローマにて、聖ヨハネ・パウロ二世教皇よりカトリックの受洗をし、『マザー・テレサ愛の花束』などの著書多数）

演題：（仮）マザーテレサの愛と慈しみの業

懇親会：17 時～（3 階 ホルトガーデン）

平成 28 年度 日本カトリック医師会理事会・評議員会 議事次第

日本カトリック医師会

平成 28 年 4 月 10 日（日）13 時 30 分～ 17 時 30 分
於：京大医学部芝蘭会館別館

12：30 受付（12 時 30 分から 13 時 30 分、芝蘭会館本館周辺、医学部構内を自由に見学）

13：30 理事・評議員会

司祭の開始の祈り

会長挨拶

議長選出

報告・審議事項：

1) 平成 28・29 年度の評議員・会長・監事選出。

副会長・理事委嘱

2) 平成 27 年度 事業報告

3) 同上 会計報告

審議事項：

1) 平成 28 年度 事業計画案

2) 同 予算案

3) 第 16 回アジアカトリック医師会総会 日本開催にあたって（石島）

4) 日本カトリック医療団体協議会（会長）

5) 日本カトリック医療施設協会（会長）

6) 日本カトリック看護協会（篠崎）

7) 海外医療支援（篠崎、会長）

8) 日本チェルノブイリ連帯基金支援（会長）

9) 第 32 回日本カトリック医療関連学生セミナー、28 年 8 月 6・7 日、北海道支部（石黒）

10) 第 33 回日本カトリック医療関連学生セミナー（会長）

11) 28 年秋の移動理事会、大分支部（大藪由布子、安井 淳、会長）

12) 29 年秋の移動理事会、福岡支部（宗 信夫）

13) 「こうのとりのゆりかご in 関西」の後援（会長）

14) 緊急時電子媒体による会議（禹 満）

15) 総会の位置付け（石島）

16) 名誉会員推戴（会長）

17) 会費長期滞納者（会長）

18) 支部報告

19) 岩手県立高田病院発行「あの日わたしたちは・・・」（会長）

20) その他

21) 事務員の引き継ぎ（会長）

22) 学生の報告「東チモールでのボランティア活動の経験」（徳田和樹）

16：30～17：30 特別講演：演者：棚次正和

17：45～19：45 懇親会

平成 27 年度事業報告

- | | |
|---------------------------|----------------------------------|
| 1. 理事会・評議員会・総会 | 4月26日京都大学芝蘭会館別館
特別講演：吉田栄司 |
| 2. 会誌第53号発行 | 27年7月4日に狩野編集委員長に代わり
会長が代行して発行 |
| 3. 会報発行 | 6月発行 |
| 4. 日本カトリック医療団体協議会第1回運営委員会 | 6月20日 聖母病院 |
| 5. フィリッピン・メディカルミッション | 8月1日～6日 |
| 6. 第31回日本カトリック医療関連学生セミナー | 8月8・9日 広島支部 岡山市 |
| 7. 移動理事会 | 10月24日 東京支部 |
| 8. 日本カトリック医療団体協議会第2回運営委員会 | 10月29日 熊本市 |
| 9. 会誌第54号発行 | 12月5日編集委員長は会長 |

平成 27 年度 会計報告

1. 収入の部

項目	予算	収入	備考
前年度より繰越金	6,411,987	6,411,987	
会費納入	4,800,000	4,321,222	全会員487名(名誉会員49名は除く。正会員458、学生3、賛助18、法人8)口座振替は218件。口座振替手数料(218件×110円×消費税8%=25898円)が引かれている。
会誌広告料	30,000	109,244	公私病連共済会(53、54号6万円)、カトリック新聞社(49,244円)。広告募集に努める。
会議費(評議員会・理事会・総会)	150,000	138,000	
寄付金	0	392,200	
雑収入	1,000	301	
収入合計	11,392,987	11,372,954	

2. 支出の部

項目	予算	支出	備考
イ. 事業費			
会誌・会報印刷費	1,600,000	1,359,373	2014年度会誌は発行が2015年度になったので2015年度の予算に組込む。会社をフリープレスKKからレイブリンティングKKに変更し、約15万円節約できた。
会議費(評議員会・理事・総会・移動理事会・医療団体協議会)	1,000,000	761,988	片道支給・支給回数制限の案もあったが、士気を損じるため平成25年度は否決し、以後も継続。役員は、最安値の交通手段の切符を購入し節減に努める。
学生セミナー費	500,000	500,000	
カトリック中央協議会会費	10,000	10,000	
カトリック医療団体協議会会費	20,000	20,000	
世界カトリック医師会会費	70,000	0	600ドル+送金手数料(振込口座先が判明次第送金予定)
アジア・カトリック医師会会費	0	0	
カリタス・ジャパン寄付	40,000	40,000	
カトリック新聞購読・広告料	45,384	45,384	

JAPAN CATHOLIC MEDICAL ASSOCIATION

名簿作成費	0	0	
□ 事務費			
通信費			
会誌・会報・名簿送料	300,000	183,638	会誌、会報はH27年度まではヤマトメール便にて送料82円(税込)。H28年度以降の送料は法改正により変更。会誌、会報のみの郵送であれば、佐川170円、ヤマトDM便(上限)164円、郵便局は205円～250円。軽い手紙は郵便局82円。
その他郵送費	100,000	79,297	
振替手数料	42,000	42,898	アジアカトリック医師会寄付金の振替手数料も含む。
事務用品費	100,000	99,365	
印刷機リース料	173,880	173,880	平成28年3月10日最終支払日。平成28年4月11日撤収予定。
ホームページ(開設・維持費)	100,000	83,319	平成24年度までは28万円であった(保・管18万、ウイルス26,200,COM管理5000、サーバーレンタル代5万4千)。約16万円節減。
電話料	40,000	25,135	ひかり電話にて経費節減。
家賃	840,000	840,000	平成25年度より、月10万円から月7万円に減額し、年36万円の削減となる。水光熱費含む。平成24年度は1,200,000円であった。
事務員手当	1,080,000	1,080,000	月9万円。新事務員は、ホームページの保守管理を行う。
事務員交通費	60,000	56,660	4月5日監査(大阪)、4月26日理事会・総会(京都)出席のため。
慶弔費	4,000	3,283	
交際費	30,000	0	
予備費	100,000	99,670	
支出計	6,255,264	5,503,890	
次年度繰越金	5,137,723	5,869,064	
合計	11,392,987	11,372,954	

平成 28 年度事業計画

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1. 理事会・評議員会 | 4月10日京都大学芝蘭会館別館
特別講演：棚次正和 |
| 2. 日本カトリック医療団体協議会第1回運営委員会 | 5月28日 聖母病院 |
| 3. 会報発行 | 6月 |
| 4. 第32回日本カトリック医療関連学生セミナー | 8月6・7日、北海道支部 |
| 5. 移動理事会 | 10月 大分支部 |
| 6. 第16回アジア・カトリック医師会総会 | 11月10日～13日 京都市 |
| 7. 日本カトリック医療団体協議会第2回運営委員会 | 11月12日 |
| 8. 会誌第55号発行 | 12月 |

平成 28 年度予算

1. 収入の部

項目	予算	平成27年度実績	備考
前年度より繰越金	5,869,064	6,411,987	
会費納入	4,800,000	4,321,222	全会員487名(名誉会員49名は除く。正会員458、学生3、賛助18、法人8)口座振替は218件。口座振替手数料(218件×110円×消費税8%=25898円)が引かれている。
会誌広告料	80,000	109,244	公私病連共済会(53、54号6万円)、カトリック新聞社(49,244円)。広告募集に努める。
会議費(評議員会・理事会・総会)	150,000	138,000	
寄付金	0	392,200	
雑収入	1,000	301	
収入合計	10,900,064	11,372,954	

2. 支出の部

項目	予算	平成27年度実績	備考
イ. 事業費			
会誌・会報印刷費	1,000,000	1,359,373	会誌発行会社をフリープレスKKからレイブリンティングKKに変更して、約15万円節約できた。5社の相見積りで、平成28年度以降の会誌・会報はレイブリンティングKKに依頼となった。
会議費(評議員・理事・総会・移動理事会・医療団体協議会)	1,000,000	761,988	片道支給・支給回数制限の案もあったが、士気を損じるため平成25年度は否決、以後も継続。役員は、最安値の交通手段の切符を購入し節減に努める。
学生セミナー費	500,000	500,000	
カトリック中央協議会会費	10,000	10,000	
カトリック医療団体協議会会費	20,000	20,000	
世界カトリック医師会会費	70,000	0	600ドル+送金手数料(振込口座先が判明次第送金予定)
アジア・カトリック医師会会費	230,000	0	今年は2000ドルを支払う年に当たる
カリタス・ジャパン寄付	40,000	40,000	
カトリック新聞購読・広告料	45,384	45,384	
名簿作成費	0	0	
ロ. 事務費			
通信費			
会誌・会報・名簿送料	200,000	183,638	会誌、会報はH27年度まではヤマトメール便にて送料82円(税込)。H28年度以降の送料は法改正により変更。会誌、会報のみの郵送であれば、佐川170円、ヤマトDM便(上限)164円、郵便局は205円～250円。軽い手紙は郵便局82円。
その他郵送料	100,000	79,297	
振替手数料	42,000	42,898	アジアカトリック医師会寄付金の振替手数料も含む。
事務用品費	100,000	99,365	
印刷機リース料	32,400	173,880	5年間の契約が終了し、リース代は不要となる。会報の印刷はレイブリンティングKKに依頼。リース代は平成28年3月10日最終支払日。平成28年4月11日撤収費用。
ホームページ(維持費)	100,000	83,319	平成24年度までは28万円であった(保・管18万、ウイルス26,200,COM管理5000、サーバーレンタル代5万4千)。約16万円節減。
電話料	30,000	25,135	ひかり電話により電話代節減。
家賃	840,000	840,000	平成25年度より、月10万円から月7万円に減額し、年36万円の削減となる。水光熱費含む。平成24年度は1,200,000円であった。
事務員手当	1,080,000	1,080,000	月9万円。新事務員は、ホームページの保守管理を行う。
事務員交通費	60,000	56,660	4月2日監査(大阪)、4月10日理事・評議員会(京都)出席のため。
慶弔費	4,000	3,283	
交際費	30,000	0	
予備費	100,000	99,670	
支出計	5,633,784	5,503,890	
次年度繰越金	5,266,280	5,869,064	
合計	10,900,064	11,372,954	

理事会・評議員会・議事録、支部報告

日時：2016 年 4 月 10 日 13 時から

場所：京都大学医学部芝蘭会館別館

議事：

1. 開会：松本信愛神父による開会の祈り。
2. 議長選出：和田恵美子氏が選出された。
3. 報告・審議事項

1) 平成 28・29 年度の評議員・会長・監事の選出：

評議員は支部で、支部の会員数に基づく割り当て人数分の評議員を選出し、事前に会長に報告した。支部で支部長を選出し、各支部長が郵送による会長選挙投票を行った。人見滋樹氏が選出された。監事の選出は評議員会で会員の中から酒井信明氏と荘司康嗣氏が選出された。

2) 副会長・理事・会計の委嘱

予め 27 年度の副会長、理事、監事に役職を継続することが出来るか否かを、会長が尋ねた。仙台支部の藤村重文理事、東京支部の土持恒人理事、狩野繁之副会長が理事と副会長を辞退された。会長により、表の通り新副会長・理事・会計・事務局長が委嘱された。(ページ 24 平成 28 年度 役員・評議員参照)

3) 会員数：正会員と名誉会員：528 名（東京支部 14 名減、大阪支部 10 名増、広島支部 4 名減）、新入会員 14 名、退会者 4 名。名誉会員に、稲角博康氏、高安 進氏、瀬戸信夫氏が推挙された。会誌 54 号以後のご逝去者：梅村正道先生、菊池辰夫先生、木島三夫先生、ご冥福をお祈りします。

4) 平成 27 年度 事業報告

ページ 16 の通り承認された。

5) 平成 27 年度 会計報告

ページ 16 の通り承認された。

4. 審議事項

1) 平成 28 年度 事業計画

ページ 17 の通り承認された。

2) 平成 28 年度 予算案

ページ 17 の通り承認された。

3) 第 16 回アジアカトリック医師会総会

日本開催にあたって、石島武一組織委員長から説明があった。(ページ 3 参照)

石島氏、会長、事務局長から寄付の依頼がなされた。(ページ 4 参照)

追加発言：篠崎文彦氏から小児の誘拐と虐待についての演題はインドネシアから 1 人手をあげたが、抄録が来ない。学生の会について、日本からは東チモールへ行った京大の徳田和樹君が応募している。

4) 日本カトリック医療団体協議会

運営委員会をページ 17 平成 28 年度事業計画の通り、5 月 28 日と 11 月 12 日に開催する。

5) 日本カトリック医療施設協会

アジア総会に医療施設協会も看護協会も全面的に協力するために各自の全国大会は今年には行わない。

6) 日本カトリック看護協会

2015 年は広島で大会が行われた。原爆記念館の見学も含め、平和を求める充実した会議であった。

7) 海外医療支援

篠崎文彦氏から以下の説明が行われた。フィリピンのギバン村支援活動は 1977 年に竹内正也氏が開始した。1986 年に診療所を作り、以後毎年医療団を派遣し、30 万円を現地に送って来た。自立支援が目的であり、それが達成されたとの判断で、昨年を最終回の医療団派遣とした。熱心に一緒に行動をして下さった赤穂市民病院に、石島氏、篠崎氏、人見会長が向いてお礼を述べ、感謝状を手渡してきた。今後どうするか。医療支援に行った者も得ることが多い行事であった。すぐゼロにはできない。何かを続けたらどうか。

8) チェルノブイリ支援

リカ医師からの礼状が来た。イラク国内避難民支援プロジェクト実施のための訪問団が派遣され、日本からは鎌田實理事長とリカ医師が派遣され、現地駐在員である加藤氏が同行した。(ページ 11 参照)

9) 第 32 回日本カトリック医療関連学生セミナー

今年は 8 月 6・7 日に天使大学で行う。(ページ 14 参照)
来年のセミナーについて：今まで受け持ったことが無い

支部が3ヶある。しかし実情をみるとそれらは暫くは無理と考えられる。横浜支部と広島支部が既に4回受け持っている。会員の多い東京と大阪が各2回であるので、次回は東京支部にお願いすることとなった。東京支部としては3回目である。

10) 秋の移動理事会：9月17日に大分支部が担当する。(ページ15参照)

11) 29年度の移動理事会は、福岡で行うことに宗支部長が承諾された。

12) 「こうのとりのゆりかご in 関西」

人見代表世話人から、大阪からかなりの数の電話が熊本に行っている。また10人位の赤ちゃんが搬入されている。関西でも立ちあげを、ということでカトリック医師会が後援することになった。カトリック医師会として承諾を頂けるかを審議し、全会一致で「承諾」した。

13) 緊急時メールによる会議

会則には「臨時総会を開ける」とはあるが、電子媒体による会議については書いてない。会則第30条として追加したい。会則の変更は総会の決議を経なければならない。細則や附則の改変は理事会で良い。この問題は来年の総会の時に改めて議論してもらうことにする。その際までに、禹氏と稲本氏に案を作って戴くようにお願いする。

14) 総会の位置づけ

名簿が2年前に完備したので、会員数が明らかになった。会則には総会の記載なし。総会の成立条件を委任状も含め会則で決める必要がある。全面的に見直す必要あり。禹氏と稲本氏に案を作って戴くようにお願いした。

15) 名誉会員推戴

3名。稲角博康先生、高安 進先生、瀬戸信夫先生

16) 岩手県立高田病院発行の著書「あの日わたしたちは・・・」が医師会に贈呈された。

17) 事務員の引き継ぎ

4月一杯で事務員が交代する。人見礼子から村上海南江・桜井純子になる。引っ越しは4月23日。

18) 学生の報告

「東チモールでのボランティア活動の経験」が京都大学医学部学生の徳田和樹氏によってなされた。

19) 特別講演

棚次正和氏(京都府立医科愛学名誉教授)により行われた。学生報告と特別講演は一般に公開し約70名の参加があった。

支部報告

◆【北海道支部】(遠藤氏・石黒氏)

北海道の実動は私を入れて3人。この3人で学生ゼミをこなそうとしている。(石黒)北海道支部では、久しぶりに新入会員を迎えました。森井 一裕先生、森井 唯子先生の父娘で、ご参加いただくこととなりました。北海道支部は、本年8月6日・7日に開催を予定している学生セミナーの準備を進めています。メインテーマは「ともに成長する親と子」です。会場となる天使大学のご協力をいただき、カトリック看護協会札幌支部の方々、天使大学の先生・学生さんにも、準備委員会にご参加いただいています。皆様を無事にお迎えできるよう準備を進めています。ご参加をお待ちしております。

◆【仙台支部】(我妻氏)

7月に大船渡で交流会と総会を開く。司祭の変更に

ついて検討。1月に仙台教区の会議の時、栄養指導の講演を行った。2月に支部長が交代した。(藤村氏から我妻氏に)。看護協会とも合同で活動を行っている。3月末、溝口氏が気仙沼看護学校を訪問した。27年度の状況が把握できなかった。しかし震災の影響はなくなっているが、経済的に困難はまだあるとの事。

◆【新潟支部】(岡野氏)

毎年外国人の健診をやっている。昨年も9人+4人=13人が来た。保健所からの相談員も来た。今年は行政書司も来る予定。10月にもカトリック教会でフィリピン人を対象に開く。新潟支部は広くて連絡がとれない。

◆【埼玉支部】(芹澤氏)

年1度集まって総会をしていたが、数人きり集まらない。東京には行きやすい。東京の会で初めて会う人

が多い。2年前に支部長の改選をお願いしたが、誰がどんな人なのか分からず、結局前任者が再当選ということになってしまった。北関東の医療相談を立ち上げた。年に4回行っている。

◆【東京支部】(和田氏)

毎月例会を開いている。活動は医療相談、いのちの電話など、会則の勉強をしようとしている。

◆【横浜支部】(酒井氏)

芹澤先生と似ている。昨年大病でうごけなかった。長野、山梨、神奈川にまたがっている。神奈川は他の2県と連絡がとれない。地域の分け方を考え直してもらいたい。支部長の役割は本部との連絡、中継のみと言えれば気が楽になる。

◆【名古屋支部】(柿崎氏)

指導司祭が他界して以来、会を開いていない。石島先生と同年齢の1人だけが会員。

◆【京都支部】(禹氏)

学セミ以後、burn outしてしまった。しかし、小中学生と歩く会(京都南部ウォーカソン)がある。1Kmごとにお金を寄付する。今年は200万円になった。それには医療班の参加が必要で、カトリック医師会と看護協会が担当した。12月にカト看と共催で会を開いた。ギラン・バレー症候群の体験の話を指導司祭がした。

◆【大阪支部】(庭屋氏)

大阪支部の定例事業としては、年度ごとの支部総会・四旬節の黙想会と教会訪問が挙げられます。2015年度からは支部の会計年度を4月から翌年3月に改めたこともあわせ、従来、国際協力のごミサ、イベントと重複していた支部総会を5月に開催することに変更しました。これにより前田大司教様には支部会ミサの司式とその後の懇親会へのご列席を頂きやすくなったかと考えています。

茨木市の「愛と光の家」で開催した黙想会には、会員、その家族に加えて一般の信者さんも加わり、レジス・ローレ神父様のおしゃれなフランス語と愛と光の家のおいしいお食事を満喫しました。今年の黙想の感想は、日本カトリック医師会監事の荘司先生の感想文という形で、支部会会員にお伝えしました。毎年、心に残る黙想会であるため、より多くの会員のご参加をお誘いしたいと思います。

人見会長、荘司前支部長のご尽力で、大阪支部

の日本カトリック医師会会員数が増加し、結果、割り当ての評議員数が1名分増加しました。ここに、小林和先生の就任をお願いしたところご快諾を頂きました。カトリック医師会での大阪支部の役割が一層重くなったことを心に刻んでいるところです。

◆【広島支部】(井村氏)

丁度2年前の理事会・評議員会の場で広島支部長 田淵昭雄先生から役を引き継がせて戴くことになった旨を報告させて戴き、ホッとしている時に学生セミナーを次は広島支部が担当して戴けないかという話をお引き受けすることになりました。岡山には医療、福祉の先達で最高の指導者の江草安彦先生がおられるので大丈夫と内心で思っていましたので、呑気に考えていました。ところが昨年3月13日(金曜日)あろうことか江草先生が突然帰天されてしまい、一瞬、先が真っ暗になりました。でも、神様は私達を守って下さり、江草先生の後輩の先生方、マザーテレサの映像記録にかけてはこの方の右に出る方はいない千葉茂樹監督、日本で最初の孤児院を岡山に作った石井十次さんたちが学生セミナーを成功に導いてくださいました。そして、セミナーに参加した学生さんの感想文を読ませて戴き、私たちが思っていた以上に皆さんはしっかりと受け止めて下さっていることがわかり、セミナーをやったよかったですと思っています。その他、AEDの説明会や、健康相談会を例年のようにやっております。

【高松支部】(田賀谷氏)

今、会員11名。実際の参加は5-6名。教区年報(年6回)に寄稿している。年1回の総会をマルチン病院で行っている。

◆【福岡支部】(宗氏)

福岡支部のカトリック医師会員間でメーリングリストを作っている。看護協会とは「福岡教区の日」に、一緒に医療団を作り参加した。井手耕一先生が井手信先生に交代して評議員となった。

◆【長崎支部】(芦澤氏)

2月25日に支部会を開いた。5人集まった。山下先生は相変わらず元気。軍艦島のことで忙しくされている。その後なら学生セミをやってもよい。

文責・稲本俊、禹満、石島武一、人見滋樹

【年会費納入と年会費口座振替手続きのお願い】

今年度までの年会費が未納の方には、払込取扱票（赤）を同封させていただきました。「平成 28 年 7 月 31 日」までに納入をお願い致します。

2016 年アジアカトリック医師会への寄付、医師会への寄付、チェルノブイリ基金への寄付、海外医療支援への寄付、「こうのとりのゆりかご in 関西」への寄付もお願いいたします。平成 26 年度より日本カトリック医師会年会費の納入方法として、「銀行口座等からの自動引き落とし」を採用させていただいております。会費納入のお手間が大幅に省かれ、また、会費の二重払いの防止にもつながります。口座振替手続きがまだの方には、口座手続依頼書を同封させていただきました。ぜひ、ご利用いただきたくお願い申し上げます。

＜口座振替概要＞

毎年 7 月 27 日に年会費がご指定の口座より自動引き落としされます。（7 月 27 日が金融機関休業日の場合は、翌営業日に引き落としされます。）

口座振替一人につき 120 円の手数料が必要となります。手数料は会員負担です。

年会費：正会員 10,000 円・学生会員 1,000 円・賛助会員 7,000 円・法人会員 10,000 円

＜例＞正会員の場合 10,120 円がご指定の口座より自動引き落としされます。



支部と都道府県との関係地図

支部によっては、多くの県にまたがり、連絡をとるのも困難を伴い、年に1回の支部総会に集まるのも難しく、一方、地域によっては、他の支部の方が交通の便が良い場所もある。医師会活動の活性化には、支部の区分けの見直しも必要と考えられる。(人見滋樹)



- 【北海道支部】 北海道
- 【仙台支部】 青森県・岩手県・宮城県
- 【福島支部】 福島県
- 【新潟支部】 新潟県・山形県・秋田県
- 【さいたま支部】 埼玉県・栃木県・茨城県・群馬県
- 【東京支部】 東京都・千葉県
- 【横浜支部】 神奈川県・長野県・山梨県
- 【静岡支部】 静岡県
- 【名古屋支部】 愛知県・岐阜県・石川県・福井県・富山県・三重県
- 【京都支部】 京都府・滋賀県・奈良県
- 【大阪支部】 大阪府・兵庫県・和歌山県
- 【広島支部】 鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県
- 【高松支部】 香川県・愛媛県・徳島県・高知県
- 【北九州支部】 北九州市
- 【福岡支部】 福岡県（北九州市を除く）・佐賀県
- 【熊本支部】 熊本県
- 【長崎支部】 長崎県
- 【大分支部】 大分県・宮崎県
- 【鹿児島支部】 鹿児島県
- 【沖縄支部】 沖縄県

平成 28 年度 役員・評議員

＜役員＞

顧問司教	高見 三明 大司教		
指導司祭	松本 信愛 神父		
名誉会長	橋本 一成	竹内 正也	石島 武一
会長	人見 滋樹		
副会長	篠崎 文彦	(広島支部)	岡野 篤夫 (新潟支部)
理事	我妻 恵	(仙台支部)	稲本 俊 (京都支部)
	井原 彰一	(高松支部)	和田 恵美子 (東京支部)
	柿崎 裕彦	(名古屋支部)	高本 眞一 (東京支部)
	後藤 正道	(鹿児島支部)	小林 誠 (東京支部)
監事	酒井 信明	(横浜支部)	荘司 康嗣 (大阪支部)
会計	庭屋 和夫	(大阪支部)	
事務局長	禹 満	(京都支部)	
事務局員	人見 礼子	(4月まで)	村上 南海江・桜井 純子 (5月より)

＜副会長・理事役割分担＞

篠崎 文彦	: 海外援助
岡野 篤夫	: ホームページ
稲本 俊	: 会誌会報編集、議事録
我妻 恵	: 国内災害
井原 彰一	: 倫理、日本カトリック医療施設協会
和田 恵美子	: 財務
柿崎 裕彦	: 医療関連学生セミナー
高本 眞一	: 日本キリスト者医科連盟連携
後藤 正道	: ML
小林 誠	: 日本カトリック看護協会、エイズ問題
禹 満	: 事務局長

＜評議員＞

支部	支部長	評議員	
1 北海道	石黒 昭彦	石黒 昭彦	遠藤 雅夫
2 仙台	我妻 恵	我妻 恵	早坂 慶晴
3 福島	茂田 士郎	茂田 士郎	本間 一男
4 新潟	勝井 豊	勝井 豊	岡野 篤夫
5 さいたま	芹澤 雅夫	芹澤 雅夫	得丸 幸夫
6 東京	和田 恵美子	和田 恵美子 小林 誠	石島 武一 狩野 繁之 伊藤 恵子
7 横浜	酒井 信明	酒井 信明	佐野 順子 西山 和彦
8 静岡	(未定)	(二名欠員)	
9 名古屋	柿崎 裕彦	柿崎 裕彦	坂本 哲夫
10 京都	禹 満	禹 満	糸井 利幸
11 大阪	庭屋 和夫	庭屋 和夫 小林 和	橋本 寛 黒田 佳治 関本 雅子
12 広島	井村 誠	井村 誠	石橋 信三 篠崎 文彦
13 高松	田賀谷 健一	田賀谷 健一	井原 彰一
14 北九州	大北 卓	大北 卓	桑野 貴巳子
15 福岡	宗 信夫	宗 信夫	井手 信
16 熊本	宮本 康志	宮本 康志	(一名欠員)
17 長崎	芦澤 潔人	芦澤 潔人	平田 哲也
18 大分	安井 淳	安井 淳	大藪 由布子
19 鹿児島	後藤 正道	後藤 正道	川下 智子
20 沖縄	石川 清司	石川 清司	(一名欠員)